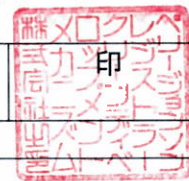


検証結果の概要報告書

検証結果の概要について以下の通り報告いたします。

対象プロジェクト名			
福井県鯖江市 (株)マルサンアイおよびウラセ(株)における RPF の利用による化石燃料由来 CO2 排出削減プロジェクト			
GHG 検証機関			
当該プロジェクトにおける検証を行うにあたり、当該プロジェクトに関して一切の利害関係がないことを宣誓します。			
機関名	ペリージョンソンレジストラークリーンディベロップメントメカニズム株式会社		
担当部署名	審査・検証部門		
責任者名	松井誉敏		
責任者 E-mail	program@pjrcdm.com		
責任者電話番号	03-5774-9565		
審査員名 ¹	検証チームリーダー: 松井誉敏 外部専門家: 無 レビュー担当者: 佐野幸光		
機関要件への合致	ISO14065 認定を IAF メンバーである認定機関より取得している。		
検証報告書発行日	2018 年 3 月 22 日		
検証結果			
適用妥当性確認・検証ガイドライン	オフセット・クレジット(J-VER)妥当性確認・検証ガイドライン Ver.2.0		
検証期間	2018年2月1日 ~ 2018年3月22日		
現地審査	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">期間</td> <td style="text-align: center;">2018年2月19日 ~ 2018年2月22日</td> </tr> </table>	期間	2018年2月19日 ~ 2018年2月22日
期間	2018年2月19日 ~ 2018年2月22日		



		審査内容		<ul style="list-style-type: none"> ・ 初回会議:当検証の目的と検証内容、被監査者の役割の確認、重要性の基準、合理的保証水準及びプロジェクトの概要及び変更の有無の確認 ・ サイトツアー(株式会社エコ・クリーン、西播環境整備株式会社、株式会社カンポ、株式会社武生環境保全):プロジェクト実施状況の確認(RPF製造設備(フロー、仕様、原料)・製造量、エネルギー使用量、品質管理、原料・製品保管状況、出荷手順の確認、文書・記録類の保管・管理状況の確認、法的適合性の確認) ・ サイトツアー(株式会社マルサンアイ、ウラセ株式会社):RPFボイラー設備(フロー、配管、バックアップ、補助燃料など)、RPF保管・管理、廃棄物、データ収集、記録の管理 ・ 算定結果係わる確認:RPF使用量の突合、算定式・パラメータの確認及び検算、ボイラー運転・点検記録の確認 ・ 算定体制・QA/QC ・ 実地検証結果の取りまとめ及び最終会議 		
排出削減・ 吸収量	年度	2013	2014	2015	2016	2017
	t-CO2	-*	-*	-*	-*	-*
検証結果の要約		<p>ペリージョンソソレジストラークリーンディベロップメントメカニズム株式会社(以下、「当社」という)は、オフセット・クレジット(J-VER)制度において株式会社マルサンアイ(以下「事業者」という)が計画し、実施した当該プロジェクトについて、事業者が 2013年4月1日から2017年6月30日の間に行ったモニタリング結果を記載したモニタリング報告書 Ver.1.0 における排出削減量に関する情報について検証を行った。検証手続は、オフセット・クレジット(J-VER)制度における実施規則 Ver.4.0、モニタリング方法ガイドライン Ver.3.0、方法論 No.E020Ver.1.0 を適用基準とし、妥当性確認・検証ガイドライン Ver.2.0 に定められている検証に関する事項に準拠して行った。</p> <p>この検証業務の基準は、業務のリスクを勘案して策定した計画に基づいて、意見表明の基礎となる合理的な保証を得ることを求めている。検証は試査を基礎とし、文書確認及びインタビューを含む現地での確認により行なわれ、モニタリングがモニタリング計画書通りに実施されていることの確認に加え、モニタリング期間中における方法論で規定された適格性基準への適合状態の維持、法令順守、排出削減量の算定方法、データのモニタリング方法、事業者が採用した仮定、その基礎となるデータの評価、モニタリング報告書における記載の検討も含んでいる。これらの手続により、当社は意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。</p> <p>当社は、上記の基準等に基づいた検証の結果、全体の不確かさの計算結果は排出削減量の5%未満であること、重要性の量的基準値5%未満であることを確認し、事業者が作成した上記モニタリング報告書Ver.1.1に記載された排出削減量に関する情報について、全ての重要な点において適正であると認め、「無限定適正意見」を表明する。</p> <p>*モニタリング期間(2013年4月1日～2017年6月30日)の総排出削減量: 55,208 t-CO2</p>				

ⁱ 審査担当者、レビュー担当者、外部専門家を含み、それぞれの役割を記載すること。